2.B.10.b その他（炭酸ガスの利用）
（Other－Utilization of Carbonated Gas）（CO_2）

1．排出・吸収源の概要

1.1 排出・吸収源の対象及び温室効果ガス排出メカニズム

化学産業では、炭酸ガスが化学工業原料、pH コントロール、エアゾールの噴射剤、殺菌ガスの希釈剤などとして使用され、消費された CO_2 は大気中に排出される。

1.2 排出・吸収トレンド及びその要因

排出量は 2005 年度までは 4 万 t-CO_2 前後でほぼ横ばいに推移していたが、2006 年度以降やや増減を繰り返すようになり、2011 年度に化学産業向けへの出荷比率が増加したことに伴い排出量も急増、その後すぐに急減した。以降は排出量は増加傾向となっていたが、2024 年度は減少した。

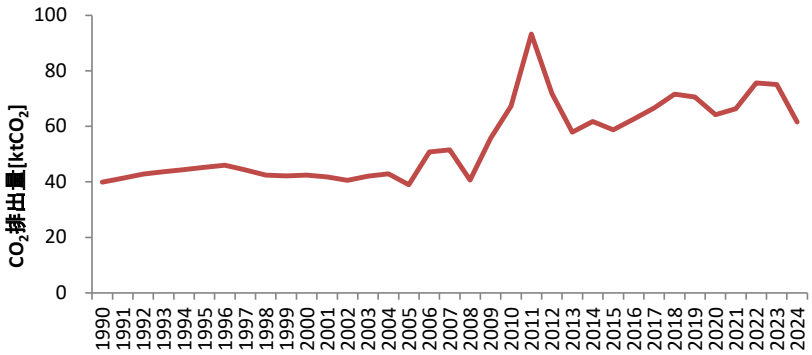


図 1　化学産業における炭酸ガスの利用からの CO_2 排出量の推移

2．排出・吸収量算定方法

「2.H.3. 炭酸ガスの利用」を参照。

3．算定方法の時系列変更・改善経緯

表 1　初期割当量報告書（2006 年提出）以降の算定方法等の改訂経緯概要

	初期割当量報告書（2006 年提出）	2024 年提出
排出・吸収量算定式	未計上	新規に排出量を報告。
排出係数	未計上	－
活動量	未計上	－

（1）初期割当量報告書における算定方法

IPCC のガイドライン上の特に記載のない排出源であり、初期割当量報告書では算定していなかった。

（2）2024 年提出インベントリにおける算定方法

新たに CO_2 の回収・利用実態を適切にインベントリに反映する趣旨のもと、2024 年提出インベントリにおいて新規に排出量を計上することとなった（現行の算定方法と同様。）。